

平成24年度

## 「小中学校におけるエネルギー・環境教育のプログラム開発」

概況

松岡 守（三重大学教育学部・教授）

本取り組みは平成19年度より中部電力の支援を受けて進めてきています。内容は小中学校の先生方に「エネルギー・環境に関して一工夫を加えた授業をご提案ください。採択した授業実施について支援をいたします。」と案内、公募し、実践された授業を報告いただき、まとめた上で公開、次年度の取り組みへとつなげていくものです。初年度の19年度は対象を本学部附属小中学校に限定していましたが、20年度から三重県下に拡大しました。年度末には報告会を実施しており、平成22年度も3月20日に報告会を予定していたものの、11日に東日本大震災が発生したため報告会は中止、翌年度（23年度）の活動も中止となりました。一年間のブランクを経て再開したのが今年度、24年度となります。取り組み名は従来と変わりませんが、大震災に伴う停電、東京電力福島第一原子力発電所の事故、その後の節電を受けて本取り組みに対する私たちの意識も大きく変わりました。

以下、ここ2年間に私個人が行ったことです。福島第一のトラブルが報道された直後から全国の中学校技術・家庭科技術分野を担当する先生方のメーリングリストで「福島第一、およびその周辺の放射能汚染はどうなっているのか」といった様々な質問が投げられました。私の元々の専門は核融合実験装置の技術開発であり、核分裂を利用した現在の原子力発電所の専門ではありませんが、一通りのことはわかりますので、不十分ながら流される情報から言えることを楽観的でもなく悲観的でもなく説明をアップし続けました。福島第一が危機的な状況を脱したあと、福島県内で始まった一般の方による除染に際し、放射線と除染の方法に関する講習会の講師が多く求められていることを知りました。私も手を挙げて平成24年初頭に何回か福島の地へ足を運びました。村の集会所で福島第一の事故、放射線、除染のイロハの説明をいたしました。その際に現地の方の生の声を聞き、深く思うところがありました。その経験を踏まえて平成24年9月に津市内で「私の見た福島からの報告」と題しての講演会をいたしました。また10月には四日市市内の小中学校から依頼を受けて「放射線を理解し、正しくこわがりましょう」と題しての特別授業も実施しました。

本取り組みについても位置づけが少し変わっています。今年度の中部電力の委託文書にも次のようなくだりがあります。

東北地方太平洋沖地震をきっかけに、日本のエネルギー問題が注目され、…。資源の乏しい我が国において、エネルギー問題の解決にあたっては、企業…行政・地域・住民などあらゆる主体の参加が不可欠である。これら主体が積極的

に行動を起こすためにはエネルギーや環境に関する教育が必要であり、特に次世代の教育を担う小中学校の教員の役割は重要である。

このため、大学などの機関が保有する教育資源を活用し、小中学校の教員のエネルギー環境教育のプログラム開発と授業実践に対して支援を行う。

私は教育学部の技術教育講座、つまり中学校技術・家庭の技術分野を担当する教師を養成するための講座に所属しています。将来中学校で技術を教えることを目指す学生であればエネルギー源の一つである原子力、そして放射線についても一通りの知識を持ち合わせるべきであり、授業で触れるようにしてきていますが、従来はあまり関心を持ってもらえなかったというのが正直なところです。が、今は違います。これは子どもたち、教師、一般の方々も同様でしょう。しかしエネルギー問題をどのように学校教育で取り上げたものが揺れているのが現状であると思います。その中で本取り組みはますます重要なものとなってきていると言えます。

本年度取り組んだのは浜岡原子力発電所、その中でも特に防波壁の見学が主体のツアーを9月に行いました。建設中の長大な防波壁を間近に見て考えさせられるところの多い、有意義な見学会でしたが、参加者が限定的であったのは残念でした。学校現場の方々は週末といえども忙しく、また浜岡原子力発電所は防波壁の見学希望が多く過密になっているとのことで適切な時期に調整ができなかったことによります。また別の機会により多くの先生方に参加いただけるようにツアーを企画したいと考えます。

教育実践研究には4名の先生方に5件の取り組みを実施いただきました。今年度もそれぞれ大変ユニークな実践をしていただいたと感じます。平成25年3月16日に今年度の取り組みの報告会を行いました。聴講いただいた方は限られた方々でした。そこで今年度の取り組みからウェブでも公開することといたしました。多くの方にこれらの取り組みをご覧頂き、実践が広がることを期待すると同時に、それぞれの実践をヒントによりブラッシュアップされた実践が開発されていくことを期待しています。